

タブレット端末を用いた JHEQデータ収集システムの構築

医療保健学部 医療情報学科4年 種田 まどか

研究背景

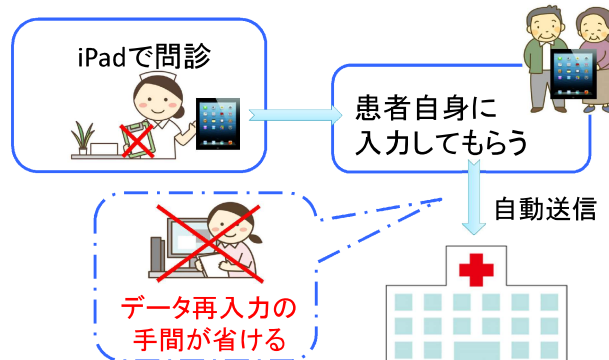
様々な疾患に対して医療評価が行われているが、医療従事者側から観察、評価するものが多い。

問題点

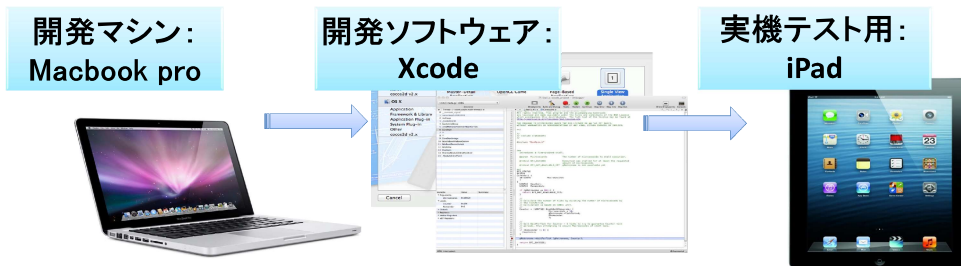
医療従事者による評価は痛みや動作を客観的に評価できるものの、
評価結果が患者の実感と異なることがある。

研究目的

- ①iPadを用いることで簡単に患者自身に問診票を入力させ、医療従事者と患者との評価結果の差をなくす。
- ②iPadの導入による作業の効率化を図る。



開発環境



アプリ内容

問診票の質問内容は「動作・メンタル・痛み」の3つの評価尺度に分類できる。

評価尺度	質問例
動作	階段を上り下りすることが困難である。
メンタル	股関節の病気のために健康に不満がある。
※痛み	椅子に座っているときに股関節に痛みがある。

質問には、「とてもそう思う～全くそう思わない」の順に「0～4」点を与え、点数化する。

※「痛み」に関しては、質問の一部に下に示すVisual Analog Scale(VAS)が採用されている。

全く痛みなし |-----X-----| 最大の痛み

VASでは、左端から回答者が記した位置(X印)までの長さを用いて5段階に分け、痛みの強い方から順に「0～4」点を与える。

このように点数化したものを以下の公式に当てはめ、評価する。

$$\text{痛み} \boxed{\quad} + \text{動作} \boxed{\quad} + \text{メンタル} \boxed{\quad} = \boxed{\quad} / 84 \text{点}$$

これらの内容をアプリケーション化することが最終目標となる。